

MUSIC

ピアノのフェラーリ、ファツィオリ 代理店誕生により日本へ本格上陸

文=田中 泰

ピアノの生誕300年を謳われる今年、幻のピアノといわれたイタリヤの名器ファツィオリが、正規代理店の設立によってついに日本市場に本格参入することとなった。

ベネツィア近郊のサチーレ市に本社を置くファツィオリは、ピアノ製作をスタートさせてからわずか30年あまり。ピアノ発祥の地イタリヤから世界最高峰のピアノを生み出すことを目標に研究開発を進め、わずかな期間でスタインウェイと比較されるほどのピアノを世に送り出したことは、まさに驚異的だ。そのあたりの詳細については、名著『パリ左岸のピアノ工房』に詳しいので参照されたい。

ファツィオリ・ピアノの特徴は、超高級家具を思わせる美しい仕上げと斬新なデザインもさることながら、創設者ファツィオリ本人が徹底的にこだわり抜いた音色の美

しさにある。骨太でくつきりとした輪郭を描くスタインウェイに対し、バランスがよく、さながら精巧な銀細工のような響きを身上とするファツィオリ。ピアニストの好みにもよるのだろうが、プロ・アマ問わず近年熱烈なファツィオリ・ファンが増えているのも事実だ。先日開催された正規代理店「ピアノフォルティ」のお披露目イベントでは、スタニスラフ・ブーニンが名演を披露し「独特の音の伸びが私を魅了して止まない」と語っていたのも記憶に残る。

クルマに例えてみれば、その高性能と安定性がメルセデスを思わせるスタインウェイに対し、華麗なフェラーリをイメージさせるのがファツィオリ。この話題の名器が、コンサートでの占有率98パーセントともいわれるスタインウェイの牙城にどこまで迫れるのか、興味は尽きない。



「ファツィオリ」を弾くことに喜びを感じるという巨匠スタニスラフ・ブーニン(写真上)。創業者パオロ・ファツィオリとファツィオリ社の職人、スタッフたち(左)。華麗な芸術品を思わせる真紅の名器「Marco Polo」(右下)。「パリ左岸のピアノ工房」(T.E.カーハート著、新潮社)(左下)。「ファツィオリ」の問合せは、ピアノフォルティ(Tel.03-6809-3534)まで。
<http://www.fazioli.co.jp/>



年間生産台数約100台という希少な「ファツィオリ」だが、モデルは多彩。